

# PHD LETTER

## 117

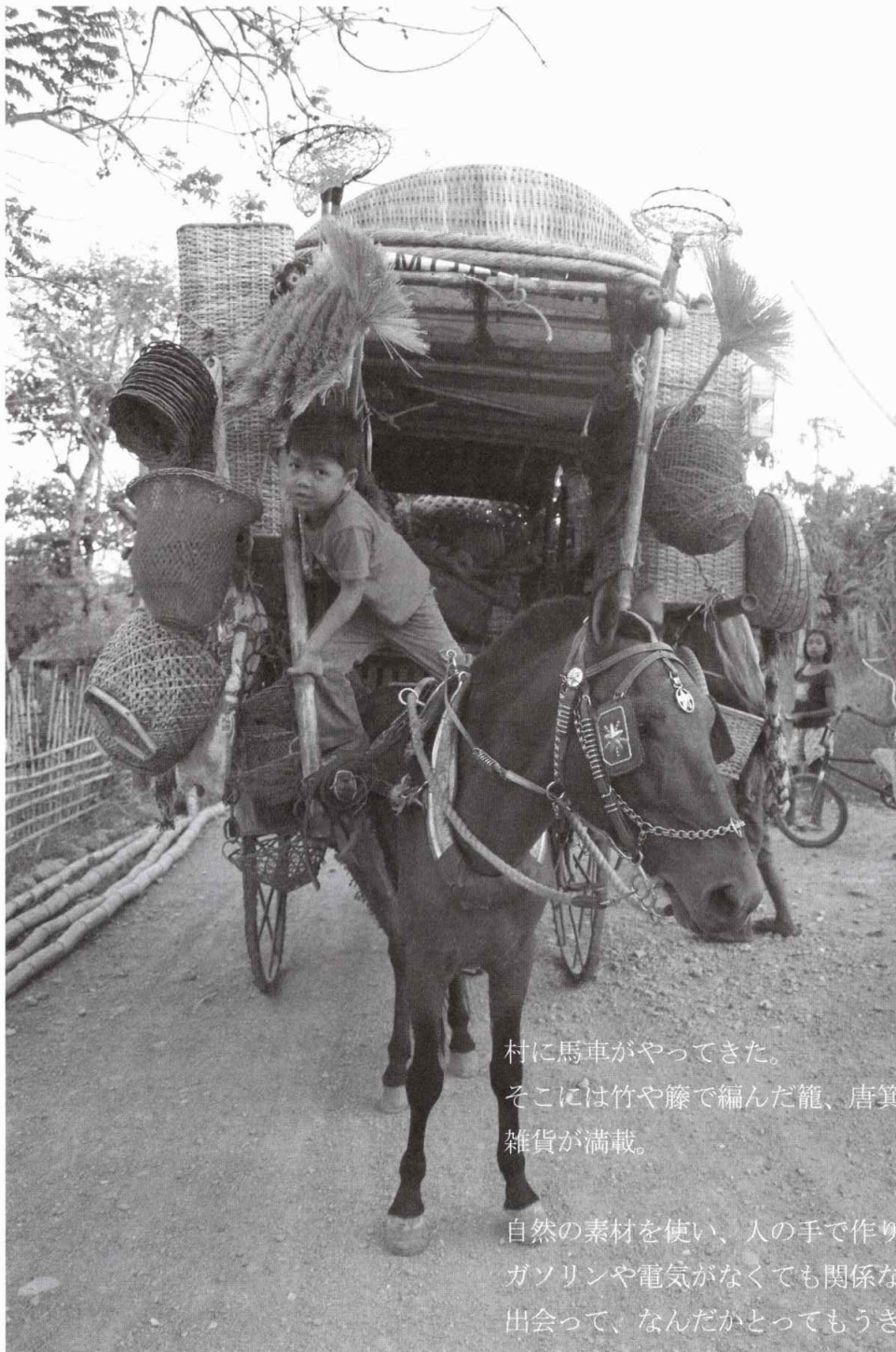
2011.7

PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

- 2011年度事業計画
- 研修生レポート 29期生紹介「研修生の背景と研修したいこと」
- 28期生、帰国後の活動報告「3月に帰国してから、どうしてる？」

PHD運動とは1962年よりネパール、東南アジアを中心に医療活動に従事した岩村昇医師の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和 (Peace) と健康 (Health) を担う人づくり (Human Development) をすすめ、共に生きる社会をめざし、1981年からはじまりました。

発行：財団法人PHD協会 理事長 今井 鎮雄  
編集人：藤野 達也  
住所：〒650-0022 神戸市中央区元町通5-4-3  
元町アーバンライフ202  
TEL 078-351-4892 FAX 078-351-4867  
E mail：info@phd-kobe.org  
URL：http://www.phd-kobe.org  
定 価：100円  
郵便振替口座：財団法人ピー・エイチ・ディー協会  
01110-6-29688



村に馬車がやってきた。  
そこには竹や籐で編んだ籠、唐箕、箒などの道具、  
雑貨が満載。

自然の素材を使い、人の手で作り、  
ガソリンや電気がなくても関係ない。  
出会って、なんだかとってももうきうきした。



2011年度 事業計画

収支状況の改善が大きな課題の30周年です。

事業内容の見直し、様々な節約で支出を抑えてきましたが、絶対的な収入額を増やさなければ、厳しい状況はよくなりません。30年の蓄積と経験をより多くの方々に知っていただき、支えていただく2011年にしたいと思います。

昨年からすすめる地域への活動の面展開、研修と啓発の連携、皆さんが主役の活動を、30周年という節目にさらに強化していきます。

今年も海外研修生3人、国内研修生2人を迎えています。この研修の各地における展開をより多くの方々に知っていただき、かかわっていただく啓発事業とします。10月22日(土)には神戸市東灘区にあるコープこうべ生活文化センターを会場に30周年記念行事を予定しています。全国各地からもお支えいただく皆さんにお集まりいただき、これまでを振り返り、これからを考えていきたいと思います。

事務局体制は総務担当が交代しましたが4人で担います。秋に公益財団法人への移行をめざし、手続きをすすめています。定款、役員体制などに変更が生じますが、次号でご報告できると思います。

30周年を機に収入増を図ります。夏には会費納入のお願いと、新規会員増の働きかけを行い、秋・冬に30周年記念募金を予定しています。何卒ご協力をお願いいたします。

啓発

国内研修生・ボランティア主体となる体制ですすめます！

昨年に引き続き、1年間という研修期間で、国内研修生を2名迎えました。海外からの研修生と共に学び、深くつながる1年となるよう、プログラムを組み立てます。また、さまざまな技術・経験をお持ちのボランティアの方々にも継続してお手伝い頂いています。これらの方々や研修生との交流を軸に、事務局業務、勉強会や講演などにも主体的に関わり、活動できる体制をつくりたい。

新企画！

インドネシア・スタディツアー ”地元学をやってみよう！”報告 3月19日～27日



タラタダマの村長さんの家で村の人に向けて絵地図の発表

3月19日～27日で「インドネシア地元学ツアー」を開催しました。その目的は「私の村には何も無い」と言ったインドラさんに、私達日本人が感じる「村の豊かさ」に気づいてもらいたいというもの。実際にはインドラさんは日本での一年間で気づきを得て帰っていますが、日本に来ることができない多く

の村の人に伝えたいと思い、インドラさんのタラタダマ村で「地元学・あるもの探し」をしてきました。これは単純に「村にあるものを発見し、それに驚く」というだけです。村の人に村の良さに気づいてもらうことは、帰国研修生の活動促進にもあたると考え、フォローアップの一種としても取り組みました。

実施してみて感じたことは、PHDのツアー全体が一つのあるもの探しだった、ということです。村にモノやプロジェクトを持ち込まず、村の良いところをただ教えてもらう。そのサイクルで研修生はより村の良さへの理解を深めていく。今回はそれを研修生だけにとどめるのではなく、村の人へと対象を広めることができたのは貴重な一歩だっ

たと思います。最後に高校生、及部一清君(高山市)の感想から日本人側の気づきを報告します。「私が高山の中学校からもらった救援物資(鉛筆やタオル)を村の学校に持っていったとき(中略)彼らはどうして困ってもないのにくれるのか不思議だったと思う。だから逆に自分が恥ずかしくなった。自分を含めた先進国の勘違いを是正していく必要がある」。「あるもの」を大切にするという意味を自ら発見してくれたようです。



帰国研修生と一緒に絵地図づくり

そして、30周年の記念行事では、長い間支えてくださっている方々により多くお越しいただきたく、準備をすすめています。

研修

地域の想いを受けた研修を行います！

～「研修生個人の研修」から、「地域のための研修」へ

今年度は研修生個人の希望研修を大事にしつつも、より地域を意識した研修を行います。具体的には3月にネパールとインドネシアで、研修生の村の人たちから聞いてきた内容を研修に反映させます。



エリザさんに期待をよせる女性グループのメンバー

例えばエリザさんであれば、タラタジャラン村の特産物である「さとうきび」に付加価値をつけるべく、「さとうを使ったお菓子作り」の研修。これは村の女性グループの総意でした。

パッサンさんは昨年度のミンクマリさんから要望で「養鶏」。「収入が増えやすいから、話を聴いてくれる人が増えるかも」と帰国後、話を聴いてもらうための取り組みに苦勞しているミンクマリさんならではの視点です。

このように地域を意識した研修を行い、帰国後に着実な成果を挙げることができるよう取り組みます。

総務・財務

研修と連携し、総務・財務を行います！

昨年度は、啓発と研修が効率よく連携し、支援へつながるとりくみを行ってまいりました。研修と啓発を支える土台として、収支状況の改善を目指します。

担当がかわり、不慣れなところや不十分なところもあるかと思いますが、掲げた目標に近づけるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

東西南北 問題解決 取組日記

3月11日、

28期の海外研修生を3月9日に見送り、ほっと一息と思った11日の午後、東北地方で大きな地震がありました。そのとき、私たちは新職員の面接の最中でした。神戸、元町にある事務所は揺れず、私たちは、しばらくしてインドネシアの研修生からかかってきた国際電話で知りました。

この災害にPHD協会はどのように対応するかを考え、数日後にホームページに載せました。

『(前略)被災直後から、帰国した研修生、関係者から安否の確認、お見舞いをいただきました。なかでもインドネシア、スマトラの研修生からは、まだ私たちが神戸でその事態をつかんでいない時点で、電話をもらいました。それには彼ら自身が地震と津波の被災者であり、その被害に対してこちらから支援をしたこともあるのだと思いました。』

PHD協会は神戸の元町にあり1995年の阪神淡路大震災の折に、事務所、職員、会員、ボランティアも被災をしました。多くの方々のご支援とお励ましをいただき、活動を続けることができました。あらためて感謝申し上げますとともに、今回の事態に際し、なにができるかを考えています。

すでに様々なところで支援の活動が行われています。PHD協会として、独自に募金や物資支援の窓口を設けることや、直接、人を送り込むことはしていませんが、日常的に関係する地元の団体で、より今回の状況に的確に動けるであろうところと連携をしていきます。(中略)

PHD協会は、今のところ第29期の海外研修生受け入れを計画通り実施するように準備をすすめています。4月14日にネパール、インドネシアから3人の

来日します。95年の震災の折も、皆さまのご理解とご支援をいただき、4月の招聘を8月に延期して事業を継続しました。今年度は、通常の研修内容に、自然災害への対策、緊急救援、復興活動などを加えたいと考えています。これは単に海外研修生の村のためにとどまらず、その研修を通じて、私たちが被災地域と「ともに生きる」ことにはなにかを考えていきたいと思います。直接的な支援だけでなく、これからにむけて、天災に完璧な準備はできませんが、人災の部分には備えられることがあると思います。たとえば多くの電力に依存するいまの生活、広い範囲にまたがった流通網に頼る生活をいま一度考え、行動することも、ひとつかもしれません。PHDの提唱者、岩村昇先生は「分かち合う」こととならんで、質素な暮らしも呼びかけました。シンプル生活のなかにある強さを、海外研修生からさらに学んでいこうと思います。(後略)』と。

そこからすでに三ヶ月が過ぎました。29期生は予定通り来日し、日本語研修を終え、実習先にてかけています。

上記のように、これからの世界、アジア・南太平洋地域、日本、東北地方がどのような社会をめざすのか、それぞれが生活する場所でどう実践していくのかを、みなさんといっしょに考え、行動し、呼びかけていくのがPHDの役割と考えています。自然災害にどう向き合うのか、人災の部分をどう改善していくのか、いままでと同じ生活のあり方でいいのか。海外研修生の地域の生活改善への協力を重ね合わせて、研修・啓発事業をすすめていきます。

10月22日、神戸にお集まりください。

今年度はPHD協会設立30周年です。岩村昇先生の提唱により「平和と健康を担う人づくり」が始まり、全国の皆様のご参加により、海外10カ国から

短期を含め184人、国内研修生17人をお世話することができました。厚くお礼申し上げます。

10月22日(土)には、神戸で30周年記念行事を予定しています。派手なことではできませんが、各地でPHDを支えてくださっている方々にもお集まりいただき、これまでをふりかえり、これからを考えるひとときとしたいと思います。あらためてご案内いたします。予定を空けていただき、ふるってご参加ください。

これまでの研修生は今、

過去の28期の研修生が帰国後どうしているかを、秋にご報告するため、各地を訪ねています。一覧表と10月22日にビデオでご紹介をします。4月から5月にかけては、フィリピンを訪ねてきました。82年、83年の研修生たちにも、ほんと久しぶりに会えました。



左 2期ウィリーさん(83年)、右 1期リトさん(82年)

30周年の今年、赤字解消にご支援を。

事業の方は着実に実績を重ね、質の向上を図ってまいりましたが、ここ4年の収支は赤字が続いています。節約はいうまでもなく、事業の見直し、収入増への取り組みを行っていますが、十分な効果が得られていません。これからも、「平和と健康を担う人づくり」を継続していきたいと思っています。皆さんにおかれましては、東日本大震災への支援に加えて、30周年を迎えるPHDへのご協力を心よりお願い申し上げます。

総主事代行 藤野達也



# 29期生研修生レポート

## 研修生、それぞれの背景と研修したいこと

**パッサンさん**  
(20歳・ネパール)



朝来市 大森昌也さん宅で

ビショさん(09年度)、ミンクマリさん(10年度)に続くガハテ村からの研修生です。二人の帰国後の活動をより促進するために日本に学びに来ました。ラッサンという2歳の子どもがいます。29期の研修生の中では一番年下ですが、落ち着いた態度からすでにお母さんの存在になっています。

### 研修したいこと

#### ■ 野菜の育て方

村では食べていくのに農業が大事。今はカトマンズに仕事をしに行く人も多いけど、私は村が好き。カトマンズは賑やかすぎるから。



パッサンさんと家族。娘ラッサンは今2歳

#### ■ 養鶏

鶏が病気になるので困っている。眠そうにしているし、死ぬ前には便やおしっこが悪くなる。他の鶏からの感染症かなあ。今は25羽ぐらい飼っているけど、できれば50羽ぐらいまで増やしたい。

#### ■ 子どもの栄養

村の子どもたちを見ると栄養がとれていないように思う。町の子どもたちは理解が早いけど、村の子どもたちはそうではないように思う。村ではあんまり野菜を食べないからかなと思うけど、子どもの栄養について勉強したい。

#### ■ 協同組合

私はビショさんがつくった協同組合のメンバーなので、グループを元気にするために勉強してみたい。



大森さん、娘さんのあいちゃん

**エリザさん**  
(22歳・インドネシア)



西宮市 はらっぱ保育園で

アルウィさん(01年度)、マスラルさん(05年度)に続くタラタジャラン村からの研修生です。初の女性研修生ということで、村のお母さんたちの期待を背負っています。お母さんたちからは「村のさとうきびを使ったお菓子作り」や「子どもの保健衛生に関すること」などを勉強してきてほしい、と言われています。

### 研修したいこと

#### ■ 洋裁

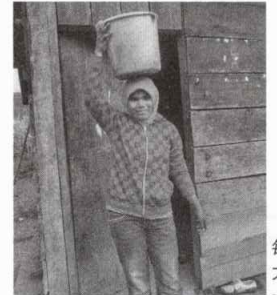
縫うところから全部勉強したい。上着とズボンが縫えるようになりたい。今は村に一人しか洋裁ができる人がいない上にその人は忙しいので、よその村に行かないといけない。日本の服はしっかりとしているので、きちんと勉強して村のみんなの服を作ってあげたい。

#### ■ 健康

いろいろ勉強したいが、特に子どもの健康や栄養、離乳食について勉強したい。栄養不足で病気になる子どもも多いし、出産時の死亡も多い。また日本で学んで帰った研修生はポシアンドゥ(地域健活動)で活躍しているので、私がんばりたい。今は月一回だが、それでは足りないのでも少なくとも月2回は行きたい。

#### ■ お菓子作り

私の村にはさとうきびがたくさんある。ココナッツがとれるので、村の農産物を使ったお菓子を作りたい。村のお母さんたちも勉強したいと言っていた。日本で勉強してみんなに教えれば、村のみんなの収入が増えると思う。

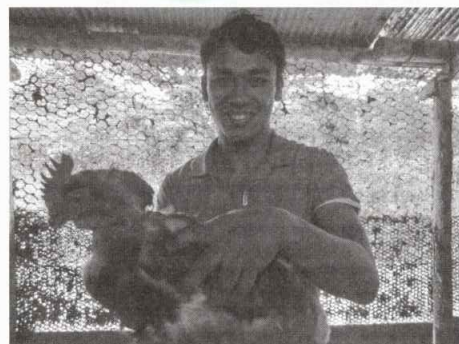


毎日水汲み大変です



さとうきびも作っています

**ラメシュさん**  
(26歳・ネパール)



神戸市北区 藤井誠次さんの鶏舎で

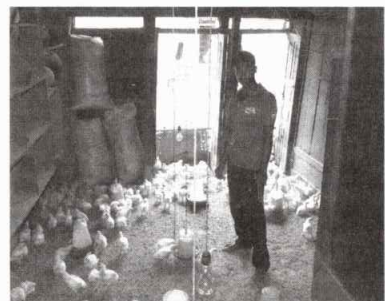
ヒングワパティという街道筋にある村から来ました。第1期生バマト・ピスタさんの作ったNGO、SSSに近く、帰国後の連携が期待されます。家で300羽規模での養鶏を行っています。真面目で何についても勉強熱心。体も強くバレーボールはかなりの腕前とか。

### 研修したいこと

#### ■ 養鶏

家の中で鶏を飼っているが、病気になって半数ぐらい死んでしまった。政府のプログラムで一日だけ研修を受けたが、病気の防ぎ方はよくわからない。病気になった時にどのように薬を与えるか、また病気を予防する方法を学びたい。私の小屋はとても臭いのも問題。

私は村の若者で作った研修グループに入っている。一人が勉強して、みんなで共有するのということをしているので、そのメンバーに教えたい。



ラメシュさんの鶏舎。家の一階と二階にあります



両親と家の前で

#### ■ 野菜

じゃがいも、たまねぎ、そしてお米を勉強したい。農業を使わないとネパールでは作ることができない。すぐに病気になる。病気にならない方法を勉強したい。

### ホストファミリーから

## 印象に残っているエピソード

#### パッサンさん

藤木和保さん 俊江さん 寿乃さん  
(神戸市北区)



『新しい娘ができました。これまではそれぞれの時間に食事をしていましたが、一緒に食事する時間が楽しくなりました。カレーライス大好きです。日本茶も少しずつ飲めるようになりました。野球が大好き。でも、阪神が弱いので、もう明日からテレビ見ませんと言っています。』

#### ラメシュさん

高木育代さん  
(神戸市西区)

『私たち日本人は「どういたしまして」を使わなくなりましたが、「アリガト」に対し、「どういたしまして」といねいに言います。』



#### エリザさん

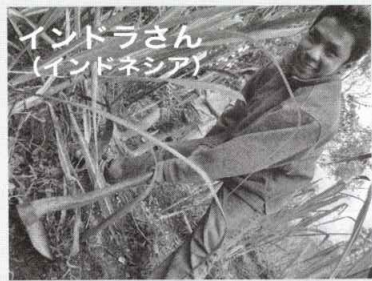
木下佳志子さん  
(神戸市北区)

『パプア、ビルマの研修生は、鍋を穴が開きそうなほどピカピカに。エリザさん、お鍋は知らん顔。お国柄なのか、価値観の違いでしょうか?』





### 3月に帰国してから、どうしてる？ -28期研修生、帰国後の活動



#### ◆農業協同組合を作る！

村に帰って、村長さんや村の青年団に働きかけ、農業組合を作りました。なんでも村の全世帯が加入しているそうです。最初の仕事は水道の整

備。きれいな飲料水を確保するために、mandiriというお金は政府、労働は村の人が行うシステムを使い、水道の整備に着手。mandiriというのはインドネシア語で「自立」という意味。インドネシアでの行政との協働プロジェクトとして帰国研修生はよく活用しています。組合はメンバーが多いので村の中でも地域ごとにグループを作り、今は3つあるそうです。

また、求めに応じて肥料の作り方や畑の耕し方などを教えているよう

す。「組合ができて、ちょっと幸せの村みたいです。きれいな水大事だからね」と語ってくれました。

「おっもいね」と30kgのお米を精米所まで運ぶ



組合への期待を語るインドラさん



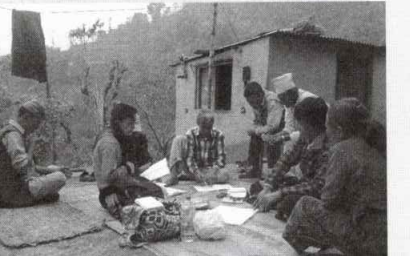
#### ◆助産師になって村のみんなのために働きたい

村に帰ってから早速ビショさんの組合のお手伝い、会費の徴収などを担当しています。また4月23日には村の人を集めて日本で勉強した農業の話をするなど意欲的に活動しています。

そして、PHD Movement Vol.1でも紹介した助産師への道ですが、目処がたったようです。PHDから渡した活動支援金をもとにバト・ビスタさんが代表を務めるSSSから奨学金を上乗せしてもらえようになったそうです。学校は8月から開始で、場所はバネパというミンクマリさんの家から徒歩1時間、バスで1時間のところにある「kavre health training center」で期間は2年間。1年間教室で勉強し、6ヶ月間研修し、その後試験という流れ。「村のお金がない人のために働きたい」というミンクマリさんの目標に

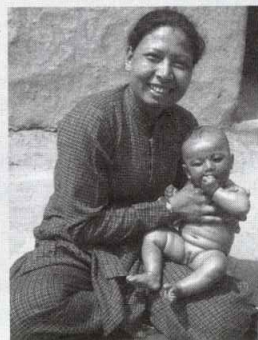
向かっての第一歩を踏み出せそうです。

屋外での組合の会合



家族と一緒に農作業

#### ◆ウルミラさん (ネパール)



#### ◆村の子どもを集めて歯磨き指導！

帰国後はSSSに助産師として復帰し、忙しい毎日を過ごしています。夜明けだろうが、携帯に電話が入れば飛び起きてお産に立ち会うという生活。そんな中、日本で勉強したことを広めています。

ジュディガオン村の子どもたちを集め、歯磨きの指導をしました。まずは子どもたちの興味を惹きつけるために日本の折り紙を紹介。そこで子どもたちの心をぐっと掴み、歯磨きの指導へ移行。指導内容については神戸市西区のなでしこ歯科さんでの研修が生きています。ばい菌やアメなどのツールを使い、話を進めていきます。



ばい菌やアメのツールで子どもたちに説明します

「今までは朝だけ歯磨きをしていた。これからは、ご飯を食べた後、朝と晩します」「虫歯がどうやってできるかわらなかつたが、少しわかった」子どもたちの感想です。



村の子どもたちを集めて話をするウルミラさん



子どもたちの心を掴んでいる証はこの笑顔

### 15期国内研修生、海外の研修生と共に学びます！

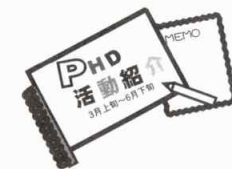


#### 吉田宜子 (よしだのりこ) さん

2011年度国内研修生になりました吉田宜子です。大学卒業後、団体職員として、約20年勤務しました。去年ネパールスタディツアーに参加してもっと国際交流、国際協力について学びたい、海外研修生が日本で学んだ事を村に帰ってどのように活かしているのか知りたい、海外を通じて日本の問題を見つめなおしたいと思い、休職して一年間しっかり勉強していきたいと思っています。一年後の私に期待してください。夫、息子、犬と同居中です。

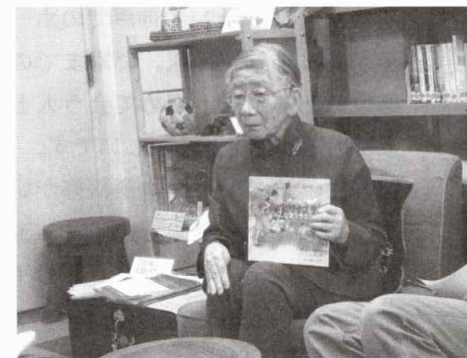
#### 岸本侑子 (きしもとゆきこ) さん

はじめまして。ネパールが大好きな岸本です。私は大学で国際協力などの授業をいくつか受けてきました。その中で支援をする側に興味を持ち、元々PHD協会と学校につながりがあったので国内研修生の応募をし、今年1年間の国内研修生として学べることになりました。これから、この貴重な体験の出来る1年でNGOの運営や支援方法など、学べることは全て学び、海外研修生の方たちとも深くつながっていこうと思っていますので、よろしくお願いします。



#### PHDのつどい第3回 話し手：岩村史子さん

#### 「岩村ドクターとPHD運動をみつめて」



絵本の紹介もありました

3回シリーズで開催した「PHDのつどい」。最終回は、PHDの提唱者岩村昇先生夫人、岩村史子さんをむかえ、ネパールでの医療やこどものための活動、そして生活の中で感じられたことを中心にお話をいただきました。また、現在史子さんは、グループで絵本のネパール語翻訳の活動をされており、その本の紹介もありました。せまいPHD事務所にたくさんの方に集っていただき、PHDの原点を知ることができた機会となりました。

#### 4月から顔ぶれが変わりました

総務・財務/研修補佐担当になりました



#### 井上理子 (いのうえみちこ) です！

はじめまして。総務・財務/研修補佐を担当します井上理子と申します。

2年程前からネパール語通訳ボランティアとして関わり、世界の出来事は私たちの日々の生活につながっていることを学んできました。これからは立場が変わりますが、ボランティアの皆様のお力をいただき、PHD運動をすすめていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

#### お世話になりました 佐々木拓次郎 (総務・財務担当)

入社してから9年間の在職になりました。この間、大変多くの方々とのつながりを通して、出会いと学びを持たせていただきました。心より感謝を申し上げます。

- 3月5日 第28期研修生帰国報告会
- 3月6日 コープこうべ「ふれあいフェスタ宝塚」バザー
- 3月6日 米山奨学生歓送会
- 3月12日 コープこうべ「祭inすみよし」バザー
- 3月19日 PHDのつどい第3回 「岩村ドクターとPHD運動をみつめて」
- 3月24日 国際ソロプチミスト神戸バザー
- 3月19日~27日 インドネシア・スタディツアー 「地元学をやってみよう！」
- 4月23日 篠山ナマステ会総会
- 5月12日 神戸市シルバーカレッジ講義
- 5月28日、29日 野草を食べる会
- 5月30日 研修指導者会
- 6月2日 関西学院高等部 育友会 講演会
- 6月4日 第29期研修生来日報告会
- 6月11日 関西国際大学カンボジア事前学習会
- 6月15日 神戸市シルバーカレッジボランティア報告会バザー
- 6月21日 松原高校来所・「産業社会と人間」社会体験



## 30周年記念行事を開催します！

日時：2011年10月22日（土）14時～19時（予定）

場所：コープこうべ生活文化センター2Fホール

神戸市東灘区田中町5-3-18

（JR住吉駅下車南東へ徒歩8分）

\*夕方から立食パーティー（実費）を予定しています。

行事への参加はもちろんのこと、多くの方を迎える行事の運営を担って下さるボランティア大募集！詳しくはお問い合わせください。

## PHD NEWS

### ◆会費・ご寄附寄託状況

2011年 2月	75件	¥844,315
3月	67件	¥913,512
4月	27件	¥274,000
5月	39件	¥769,000
208件		¥2,800,827

ご協力により心よりお礼申し上げます。公益財団への移行手続きのため7月10日以降、ご寄附に対する免税の特典のある領収書の発行がしばらくできなくなります。詳しくはお尋ね願います。

### ◆インドネシア・スタディツアー

締切り直前です！今すぐお申し込みを。

日程：8月27日～9月4日早朝

参加費：既会員220,000円

新規会員225,000円+会費5,000円

申込締切：7月22日（木）

### ◆夏のスタディツアー合同報告会

夏のスタディツアーの報告会を行います。お気軽にご参加ください。

日時：9月17日（土）（予定）

場所：神戸市青少年会館



ボランティアを始めて1年あまり。PHDの活動が実に多くの人々の協力のうえに成り立っているのだと実感させられてきた。それは離れたところからみれば大きな輪のようにも感じる。

海外からの研修生。国内研修生。研修生に日本語を教える方々。その後それぞれの研修先でお世話になる方々。事務局で切手の整理等々に励む方々。遠くから活動全般を支える会員の方々。そして、

### ◆年末年始のタイ・スタディツアー

毎年恒例、北タイ、カレンの村を訪れます。草木染めの布を織る女性グループとの交流やホームステイ、村のクリスマス、新年も体験します。

日程：12月23日～2012年1月2日

金額：約20万円

### ◆2011年度も外務省「NGO相談員」を受託しました



国際協力・交流、NGO/NPO、ボランティアなどについて、ご相談にお応じます。出張サービスにも出向きます。どうぞご活用ください。

### ◆今年度も生協総合研究所より助成をいただきました

昨年に引き続き、生協総合研究所の「アジア生協協力基金」から11年度助成をいただきました。ありがとうございます。

### ◆理事が交代しました

5月27日開催の第70回定例理事会において、理事の上田享史氏、多木和重氏、中野景介氏が退任し、代わって松田高明氏、田中敬一氏、梶山卓司氏が就任することになりました。

一年後にはすっかり日本語がうまくなりそれぞれが自国に帰国後の目標を胸にした研修生の姿がある。

では私自身はどうかといえば、データベース管理ソフトに修正や機能追加をして会員や協力者の方々との交流に役立てたり活動の記録を取ったりできるようにしている。仕事をしていた時と違って、PHDではすぐに利用者のニーズがつかめ、自分が役に立っているという実感があるのが嬉しい。私も輪の中の一鎖りなのかな。

（もりりん）

## 今年の会費、お願いします

PHDの活動を資金的に支える土台は会費とご寄附です。

会員の皆さまには継続して、まだの皆さまには30周年の今年を機に新しく会員としてお支えいただきたく思います。

これからも「平和と健康を担う人づくり」を続けて行くために今年度会費の納入をお願いします。

## 〇月×日のPHD協会

一近ごろ思う小さなしあわせ

研修生 ラメシュ 神戸の町を歩いていると、時々アジア雑貨のお店でネパールのもをみつけます。買いたくなるけど、値段をみてびっくりです。

職員 井上 家の近所にインド料理屋を発見。おいしいだけでなく格安のインド映画DVDも販売。2回でかけて、6枚入手。最近の夜の楽しみです。

職員 川原 梅雨の晴れ間の休日はふとんを干して、シーツを洗濯。夜、寢床に入り、お日さまの匂いを感じるひととき。いい気持ちです。

職員 坂西 研修担当は帰りが不規則になりがち。週に一、二度、6才の息子と晩ごはんが食べられるとき。追伸、大きな幸せ、6月に娘が誕生しました。

研修生 パッサン 神戸でのホームステイ先は神鉄花山駅。お家までの長い階段のある道で、初めて会う人とも仲よくお話ができ、うれしいです。

研修生 エリザ 日本語研修が始まってまもなく、三宮駅で迷子に。困っていると、中年男性がカタコトのインドネシア語で道案内を。ありがとうございます。

職員 藤野 歩くこと。身体を動かせ、交通費の節約にも。けれど人の多い町中は×。できれば裏道、もっといいのは緑の中、土の道なら◎です。

（滑舌が悪くて聞き返されることが多い順）

制作協力：菅原宗晋 増本一朗  
-再生紙を使用しています。